

大腸癌研究会プロジェクト研究
『肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究』
第 8 回会議議事録

日時：2021 年 7 月 1 日 13:00-14:00

会場：完全 Web 形式

出席者：委員長：山田一隆

プロジェクトアドバイザー：森正樹

委員：赤木由人（代理：藤田文彦）池秀之、池田正孝（代理：別府直仁）、石田秀行、石田文生、
石原聡一郎（代理：野澤宏彰）、伊藤雅昭（代理：塚田祐一郎）、伊藤芳紀、上野秀樹（代理：安部紘生）、
大沼忍、岡島正純（代理：吉満政義）、沖英次、落合淳志（代理：小嶋基寛）、金光幸秀、川村純一郎、
幸田圭史（代理：小杉千弘）、小林宏寿（代理：高島順平）、小松嘉人（代理：結城敏志）、小森康司、
坂本一博（代理：河野眞吾）、佐々木慎、塩澤学（代理：三箇山洋）、島田安博、須藤剛、須並英二、
高島淳生、夏越祥次、橋口陽二郎（代理：金子建介）、濱口哲弥、濱田円、肥田侯矢、船橋公彦、
舂石俊樹（代理：松原裕樹）、盛真一郎、山口達郎、山崎健太郎、山本聖一郎、吉野孝之

【50 音順】

オブザーバー：国立がん研究センター研究所（白石航也、高柳大輔）

【敬称略】

会議内容：

I) 議題 1. 「肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究」進捗状況について

(1) 第 7 回プロジェクト研究会議事について

委員長の山田より、第 7 回会議議事の確認を行った。

(2) 倫理審査通過状況について

事務局の杉本より、研究計画書第 2.0 版の各施設における倫理審査通過状況（要倫理審査 47 施設中、13 施設）について報告を行った。

(3) 主研究論文報告について

委員長の山田より、本研究において執筆した 2 編の論文について報告を行った。

・本邦における肛門管扁平上皮癌の特徴について

本邦における肛門管扁平上皮癌の特徴と T4 の細分類に関して執筆し、現在投稿先を検討している。

本論文では、本邦の肛門管扁平上皮癌の特徴として、T4 症例（他臓器浸潤症例）の中でも

5cm を超える腫瘍に関して予後が不良であり、T4 をさらに

T4a：T4 のうち、最大径が 5cm 以下の腫瘍

T4b：T4 のうち、最大径が 5cm を超える腫瘍

と分類することを提案している。この結果を Stage 分類にどのように反映させるか、今後検証を進め、論文化することを報告した。

・本邦における肛門管腺癌の取扱いについて

下部直腸癌と肛門管癌の腺癌の取扱いの違いについて執筆し、Surgery Today へ投稿し、accept となった。

本論文は、全国大腸癌登録事業における 1991 年から 2006 年の登録データを用いて解析を行っている。

下部直腸癌と肛門管癌の腺癌の主な違いとして、肛門管腺癌は女性や高齢者に多く、肉眼型については 5 型腫瘍が極端に多かった。

また、組織型についても低分化腺癌 (por) /粘液癌 (muc) /印環細胞癌 (sig) が多かった。

予後に関しては下部直腸癌と比較して肛門管癌が不良であり、その原因として組織型で por/muc/sig が高率であることが考えられる。

II) 議題 2. 副次研究課題について

(1) 副次研究希望調査結果および募集要項について

委員長の山田より、副次研究希望調査結果および募集要項について報告を行った。

2021年6月11日より事前にメールにて副次研究の希望に関して連絡し、その結果として7施設より9題の希望があった。

- ・愛知県がんセンター消化器外科からは治療法の分野で
【テーマ】肛門管癌における側方郭清の意義に関して が希望された。
- ・国立がん研究センター東病院大腸外科からは
①治療法の分野で
【テーマ】CRT後 non-CR 症例に対する Salvage Surgery は OS/DFS 向上に寄与するのか？
②腫瘍学的分析の分野で
【テーマ】adenocarcinoma として登録された症例の鼠径リンパ節転移の予後への影響は？
の2題が希望された。
- ・京都大学医学部附属病院消化管外科からは治療法の分野で
【テーマ】手術と CRT の予後に関して が希望された。
- ・東海大学医学部消化器外科からは治療法の分野で
【テーマ】初回治療が手術かそれ以外かで予後や再発形式、再発後の治療等に関して が希望された。
- ・東京大学医学部腫瘍外科・血管外科からは治療法の分野で
【テーマ】①初回治療法と予後の関係、②再発症例の検討、③リンパ節転移部位の意義
が希望された。
- ・産業医科大学医学部第一外科からは
①治療法の分野で
【テーマ】SCC に対する年次的治療法の変遷に関して
②腫瘍学的分析の分野で
【テーマ】SCC における T 因子と上方向・側方・鼠径 LN 転移頻度の関連
の2題が希望された。
- ・埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科からは治療法の分野で
【テーマ】肛門管扁平上皮癌に対する放射線化学療法にて CR となった症例の再発危険因子の解析、
salvage surgery 後の予後
が希望された。

委員長の山田より副次研究課題の募集要項を提示し、さらに多くの施設より各研究課題の論文化が行われるよう依頼がなされた。

(2) 関連研究：肛門管癌と HPV の関連性に関する研究について

事務局の杉本より、本研究の関連研究として肛門管癌と HPV の関連性に関する調査結果について報告を行った。

大腸肛門病センター高野病院の 1991 年～2015 年の手術症例から得られた切除標本を用いた先行研究の結果では HPV 陽性率が 21.4%であり、国立がん研究センター中央病院より、国立がん研究センター中央病院で行われた 2006 年～2018 年の生検組織を用いた HPV 検査研究の HPV 陽性率 85.1%と比較して低率であることが指摘された。原因として DNA の経年劣化が考えられるため、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター研究所と共同研究を行い、先行研究での残余検体から電気泳動を用いて経年による DNA の劣化を確認する。

経年劣化の状況を確認したうえで、対象年度を選定し、生検組織を用いた HPV 検査を行うことを報告した。本プロジェクト研究とは別研究として研究計画書を作成し、大腸肛門病センター高野病院倫理委員会へ申請する予定である。

質疑内容・意見

1. 大腸肛門病センター高野病院と国立がん研究センター中央病院の HPV 陽性率の差の原因として、地域差も考えられるのではないかと、との質問があった。
⇒地域差の影響も考えられるが、あまりにも差があるため、まずは検体の質を確認したうえで地域差を含めた背景に関する分析を行っていく。
2. 共同研究者の国立がん研究センター研究所の白石航也先生より、まずは検体の質を確認したうえで国立がん研究センターと同様の方法で検査を行うことで、より正確な比較・分析を行うことが補足された。
3. 検体の質および DNA のサイズに關与する PCR のプライマー設定を確認することは、分析を行ううえで必要だと思われる。また、地域差だけでなく男女で違いがないか、についても分析してもらいたい、との意見があった。

文責：山田 一隆